

勢多だより No.65 (2004.7.10)

著者	「勢多だより」編集担当者会議
発行年	2004-07-10
その他の言語のタイトル	Seta dayori No.65 (July 10, 2004)
URL	http://hdl.handle.net/10422/1291



SETA DAYORI No. 65

SHIGA UNIVERSITY OF MEDICAL SCIENCE

トピックス

平成16年度入学宣誓式……………	1
平成16年度新入生紹介……………	3
臨床技能訓練室を開設……………	6

新任教員紹介

宮崎総一郎・増井 晃・高橋健太郎・齊藤 康晴・兼重 努・宮松 直美	7
-----------------------------------	---

キャンパスライフ

第29回浜松医科大学との交流会開催……………	12
第90回保健師国家試験の結果について……………	15
第93回看護師国家試験の結果について……………	15
第98回医師国家試験の結果について……………	15
国際交流の夕べを開催……………	16
外国人留学生見学バス旅行……………	19
サークル紹介「作法研究会徹底解剖」……………	20
新入生研修に参加して……………	22
海外遠征体験記「楽しいクライミング」……………	24

インフォメーション

MR医学総合研究センターに7テスラMR装置の導入……………	26
第27回解剖体納骨慰霊法要……………	27
映画「火火」のロケ……………	27
小澤和恵元学長「瑞宝中綬章」受章……………	28
名誉教授の称号付与……………	28
平成15年度卒業式……………	28
平成15年度第2回学位授与式……………	31
平成15年度学位論文にかかる学生表彰……………	31
第Ⅱ期第3回運営諮問会議を開催……………	31

保健管理センターだより……………	32
------------------	----

トピックス

平成16年度滋賀医科大学入学宣誓式

平成16年度入学宣誓式が、去る4月5日(月)午前10時から本学体育館において挙行され、学長から次の通り告辞がありました。

告 辞

学長 吉川 隆一



本日入学式を迎えられた医学科90名、看護学科72名、計162名の新入生諸君、滋賀医科大学へのご入学おめでとうございます。教職員、在校生一同、心より歓迎申し上げます。また、ご出席頂きましたご両親、ご家族の皆様、に、晴れてこの日を迎えられましたことにお喜び申し上げます。大学院博士課程に入学された30名、修士課程に入学された8名の皆様、より高い峰への登頂を決意されたことに敬意を表しますと共に、学問の進歩への貢献と更なる自己研鑽に励まれますことを期待しております。

さて、今年平成16年、西暦2004年は、滋賀医科大学にとって極めて大きな節目の年であります。皆様ご承知の如く、89校の国立大学が本年4月1日より一斉に国立大学法人となりました。いわゆる法人化と呼ばれる改革でして、本学は国立大学法人滋賀医科大学となりました。マスメディアで伝えられている如く、国立大学における設置形態の改革は、大学の運営・経営に大きな変化をもたらすことが予測されており、国立大学時代の画一的なやり方ではなく、各大学の創意、工夫がためされることとなります。しかし、本学の基本的な理念、目標には変わりはありません。諸君が人間として成長する過程をお手伝いし、高度な専門的知識と技を有した、人間味あふれる医療人に育てるよう努めることは本学に付託された大きな社会的使命でありま

す。また、未来の医学、看護学を創り出す研究者が羽ばたく自由な環境を用意することも大学の大事な使命であり続けます。新入生の諸君には、こうした本学の意思を汲み取って頂き、また一人一人が医師・看護師を目指した決意を大切に守り、勉学に励んで下さい。

滋賀医科大学の創設は昭和49年、西暦1974年であり、本年が丁度30年目の記念すべき年となります。「従来の慣習・制度にとらわれない新しい医学の教育研究機関」を目指した諸先輩の努力により、地域の人々に支えられる大学、世界へ挑戦する能力を備えた大学へと育ってまいりました。新入生の諸君もこうした諸先輩の築き上げてきた輪に加わり、本学が目指す「クリエイティブな集団」の一員としてより一層社会的貢献が果たせるよう研鑽に励んで下さい。

最後に大学は学問に励む場であると共に、人間形成にとっても重要な場であることを指摘しておきます。クラブ活動を通し、或いは同級生、先輩、教職員、地域の方々との交わりを通して、豊かな人間性を身に付けてください。実りあるかつ楽しい学生生活を送っていただけるよう祈念して、学長告辞といたします。

平成16年4月5日

臨床技能訓練室(Clinical Skills Laboratory)を開設

本学において、これまで開設準備を進めてきた臨床技能訓練室が実験実習機器センター棟1階に完成し、6月3日(木)にその完成披露記念式典が行われました。

臨床技能訓練室は、卒業前の医学教育における臨床実習において、視聴覚教材、模型、シミュレータ等を用いた訓練が必須となってきたことに伴い、平成13年度から逐次整備が行われてきたもので、式典では、吉川学長の式辞、山敷祐亮滋賀県医師会長の祝辞に続き、両名によるテープカットが行われました。

式典終了後、総合診療部三ツ浪教授より臨床技能訓練室に設置された心音聴診シミュレーター、呼吸音聴診シミュレーター、縫合・切開トレーニングシステム、救急処置トレーニングシステム等全17システムについて説明がありました。

臨床技能訓練室は、医学生や研修医のみならず、

地域の保健医療関係者をはじめ教育委員会と連携して地域の一般高校生等にも利用していただくなど、地域に貢献できる施設を目指しています。

なお、導入されたシステムは次のとおり

- ① 心音聴診トレーニングシステム
- ② 呼吸音聴診トレーニングシステム
- ③ 眼底診察トレーニングシステム
- ④ 鼓膜診察トレーニングシステム
- ⑤ 骨盤部臨床手技トレーニングシステム
- ⑥ 縫合・切開トレーニングシステム
- ⑦ 採血・静注トレーニングシステム
- ⑧ 救命処置トレーニングシステム
- ⑨ 気道管理トレーニングシステム
- ⑩ 腰椎穿刺・麻酔トレーニングシステム
- ⑪ 乳癌触診トレーニングシステム
- ⑫ 導尿・浣腸トレーニングシステム
- ⑬ 女性触診トレーニングシステム
- ⑭ 母性総合トレーニングシステム
- ⑮ 血圧測定トレーニングシステム
- ⑯ 解剖学トレーニングシステム
- ⑰ 臨床技能観察トレーニングシステム



新任教員 紹介

睡眠学講座客員教授就任の挨拶

教授 宮崎 総一郎



2004年4月1日より、睡眠学講座に着任いたしました。この睡眠学講座は、睡眠医療と関連領域の研究、教育を目的とした日本で初めての講座です。産学共同プログラムの一環として、精神科の大川匡子教授が中心となって進めてきたもので、国立大学における教育研究の豊富化、活発化を図ることを目的として、民間からの寄附を活用して設立運営する寄附講座として開設されました。

1998年に厚生労働省が実施した疫学調査で、わが国では5人に1人が睡眠にかかわる問題を抱えていることが明らかになっています。欧米先進諸国と同様に交代勤務や深夜勤務の増加によって、勤労者の睡眠不足と睡眠不足による事故の増加が指摘されています。また、新幹線居眠り事故などで注目されるようになった睡眠呼吸障害に対する適切な診断・治療も重要な課題です。

睡眠学は、ヒトはなぜ眠るのかという「睡眠科学」、なぜ眠れないのか、また昼間眠くて困るのは病気なのかという「睡眠医学」、そして睡眠障害による経済的損失や学校・職場における学業成績および生産性など、睡眠に関する社会的影響を扱う「睡眠社会学」という3つの柱からなる学問領域です。

睡眠学講座では、睡眠医学として国民の健康を守るだけでなく、睡眠障害の原因の研究と治療法の開発に取り組み、睡眠社会学として社会問題における睡眠の関わりを明らかにして、睡眠プランの作成や睡眠衛生の是正を行うほか、睡眠科学として睡眠の発現機構の解明がなされ、睡眠の生体に対する役割を明らかにすることを目指しています。

講座開設により、これまで不眠なら精神科、いびきなら耳鼻咽喉科と症状によって受診科が異なっていましたが、窓口が1つになってより受診しやすくなり、

また診療科を越えた適切な診断と治療が行えるように努力して参ります。

さらに、耳鼻咽喉科、精神科神経科のほか、神経内科、呼吸器内科、循環器内科、内分泌代謝内科、小児科、歯科口腔外科、放射線科など多岐にわたる診療科の協力を得て、さらには他大学や他の医療機関、地域との連携を行いながら診断・治療・研究を進めたいと考えています。

今後の活動プランとしては、予防医学と臨床を合わせた睡眠障害センターを睡眠学の拠点として、地域はもとより全国の病院や保健施設との連携ネットワーク作りを進めていくほか、睡眠外来のない病院や一般開業医に対しても知識啓発が必要な場合には、医師会や各大学の関連学部に教育的援助を行っていく予定です。

また睡眠研究については、「まず睡眠呼吸障害、リズム障害、薬物・非薬物両面からの不眠症の治療法の確立、高齢者の睡眠障害などに取り組んでいく予定です。

さらに治療・研究だけでなく、医学部学生、看護学生、医師、看護師、臨床検査技師などに対する教育研修を行うほか、地域活動として一般医師への教育はもちろん、大学教養部（教育学部、体育学部など）で睡眠に関する集中講義を行ったり、一般市民を対象にした市民講座、社会人大学等での教育活動などを考えております。

かねてから大川先生を中心に取り組んでこられた睡眠医学研究という素地を生かして、全国の睡眠学の拠点となるべく、また睡眠医学の普及・啓蒙に努めていきたいと思っています。

どうぞよろしくご支援、ご協力をお願い申し上げます。

経歴

昭和54年3月 秋田大学医学部医学科卒業
昭和54年6月 聖マリアンナ医科大学病院研修医
昭和56年4月 秋田大学大学院医学研究科博士課程入学
昭和60年3月 同 修了
昭和60年4月 秋田組合総合病院 医師
昭和62年4月 秋田大学医学部附属病院助手
平成2年10月 国立水戸病院耳鼻咽喉科医師

平成4年3月 同 医長
平成5年1月 秋田大学医学部附属病院助手
平成8年7月 秋田大学医学部附属病院講師
平成10年10月 秋田大学医学部助教授
平成16年4月 滋賀医科大学医学部睡眠学講座客員教授

精神医学講座助教授就任の挨拶

助教授 増 井 晃



この度、平成 16 年 3 月 16 日付けで、精神医学講座の助教授に就任いたしました。私は、85 年 3 月に本学卒業（5 期生）と同時に本学精神医学教室に入局しました。当時高橋三郎教授が日本では先駆的に取り組んでおられた操作的診断基準（DSM-III）や、精神機能（こころ）を科学的に捉える視点を身につけたことが、自分の精神医学の基礎となっています。その後 91 年から 97 年まで滋賀県立精神保健総合センターに在籍し、思春期・青年期精神医学（主として摂食障害）にスタンスを置くことになりました。97 年 4 月に本学に助手として復帰以来、引き続き臨床中心に活動しております。処遇困難な「摂食障害」の患者さんが治療対象ですので、小児科、消化器内科、救急部をはじめ、多方面の先生方からご支援と

◆経 歴

昭和60年 3 月 滋賀医科大学医学部医学科卒業
昭和60年 6 月 滋賀医科大学医学部附属病院医員（研修医）
昭和61年 4 月 滋賀医科大学医学部助手
昭和62年 4 月 財団法人療道協会西山病院精神科神経科医師
平成 2 年 9 月 滋賀医科大学医学部附属病院医員
平成 3 年 1 月 滋賀医科大学医学部附属病院助手

ご協力をいただく機会が多く、この場をお借りしてお礼を申し上げたいと思います。

単に精神疾患の治療だけでなく、現代社会においては、ストレス、児童虐待、自殺、犯罪など、精神医学が関与あるいは参画を求められる領域が数多くあります。したがって、学生の皆さんとこうした問題を共に考えながら、精神医学の醍醐味を伝えていくことも自分に科せられた責務と考えています。

これからも大川教授のご指導の元、臨床、教育、研究のバランスをとりつつ、微力ながら精進していく所存でありますので、一層のご指導ご鞭撻の程、よろしくお願いいたします。

平成 3 年 4 月 滋賀県立精神保健総合センター開設準備室（主任技師）
平成 4 年 6 月 滋賀県立精神保健総合センター副医長
平成 7 年 4 月 同 医長
平成 9 年 4 月 滋賀医科大学医学部助手
平成13年 6 月 滋賀医科大学医学部附属病院講師
平成16年 3 月 滋賀医科大学医学部医学科精神医学講座助教授

産科学婦人科学講座助教授就任の挨拶

助教授 高 橋 健 太 郎



平成 16 年 4 月 16 日付けで産科学婦人科学教室に島根大学より着任いたしました。島根大学医学部と滋賀医大は共に同じ頃に開学された新設医大で、その規模もほぼ同じような気がします。滋賀医大の大学の周辺は山、森林？ですが島根大学は田んぼでした。滋賀には日本最大の湖（周囲 235 km）、琵琶湖がありますが島根にも宍道湖という周囲 45

km の日本で 7 番目に大きい湖がありました。滋賀に無く、出雲に存在するのは出雲大社ぐらいでしょうか。とにかくそんな田舎の大学から赴任して参りました。

医科大学人としての義務は、教育・研究・診療と心得ています。一つずつ私の思うところを簡単に述べたいと思います。学生には「面白さ」をもっ

て知識を習得させることが第一と考えています。産科婦人科は他の診療科と違い、生命の誕生から死亡までを取り扱います。それだけに、そこには基礎医学、臨床医学に裏打ちされた幅広く、かつ深い知識とその応用が必要となります。生命の誕生に対しては患者と共に心から喜び合い、末期癌患者に対しては、患者の真の痛みを知り、それを和らげるべく、メンタルケアを行い、患者様に安らぎを与えるような、温かい医療が出来る心を持ち合わせた医師を育てることに日々努力しています。研究は全てが苦勞であります、本人は熱中すればそれは苦勞ではなく、楽しみであります。ふと我に返ったとき、結果が出たときの喜びを想像し、微笑んでいる自分の姿を鏡で見るとゾ～とする昨今であります。医者の評

◆経 歴

昭和53年 3 月 鳥取大学医学部医学科卒業
昭和53年 4 月 鳥取大学大学院医学研究科博士課程入学
昭和57年 3 月 同 修了
昭和57年 4 月 平田市立病院産婦人科医長
昭和58年 4 月 島根医科大学医学部助手

価は医者が判断するものではなく患者様が判断するものであります。しかし、患者様に好かれようとして、自分を飾って仕事をしてもそれは窮屈なだけで何にもならないと思います。患者様が自分の身を任せても良いと思うくらいの関係にならなければ良い医療は出来ないと思います。そのためには、十分時間をかけて、信頼関係を作ることであり、それが一旦成立したら、病気は半分以上治ったようなものと確信しています。

今後、滋賀医大の学生をはじめ皆様方と仲良く語らい、仕事が出来たらと考えています。宜しく願いたします。

昭和60年10月 島根医科大学医学部附属病院講師
平成 6 年10月 島根医科大学医学部助教授
平成15年10月 島根大学医学部助教授
平成16年 4 月 滋賀医科大学医学部医学科産科学婦人科学講座助教授

光学医療診療部助教授就任の挨拶

助教授 齋 藤 康 晴



平成 16 年 4 月 1 日付け、新設されました附属病院光学医療診療部の助教授に招聘されました。私は、滋賀医科大学の 1 期生で、略歴のとおり大学での臨床を離れ 19 年になります。

各種の学会や研究会にはできるだけ参加し、発表等を行ってきたので、医局とはずっと深く関係してまいりました。もう 2 度と大学で診療をすることはないと思っていましたが、今回縁があって本学に復帰することになりました。

公立甲賀病院では消化器内科を担当してまいりました。非常に症例数の豊富な病院で、肝胆道疾患や

胃癌の内視鏡的治療に明け暮れていました。以前は内視鏡の役割は診断が主で、胃癌などは診断すれば後は外科に紹介するだけでしたが今は違います。ここ数年の内視鏡治療の進歩にはめざましいものがあります。自分で診断して自分で治療し、結果が悪ければすべて自分にふりかかる。診断から治療まで一貫した仕事です。

大学では、外科医を含む他科の医師や若い研修医にもどんどん内視鏡を操作していただいて内視鏡に興味を持ってもらい、皆が自由に集まるような診療部にしたいと思っています。

◆経 歴

昭和56年 3 月 滋賀医科大学医学部医学科卒業
昭和56年 6 月 滋賀医科大学医学部附属病院医員（研修医）
昭和58年 4 月 草津中央病院内科医師
昭和59年 5 月 滋賀医科大学医学部附属病院医員（研修医）
昭和60年 4 月 滋賀医科大学医学部助手

昭和62年 5 月 草津総合病院内科医師
平成 2 年 5 月 公立甲賀病院内科部長
平成16年 4 月 滋賀医科大学医学部附属病院光学医療診療部助教授

医療文化学講座助教授就任の挨拶

助教授 兼 重 努



私の専攻する文化人類学は異文化を研究する学問です。異文化を学ぶことによって、人間の生き方の多様な可能性を学ぶことができます。そして異文化を知ることは、それまで自覚することがなかった自文化を再発見することでもあります。異文化研究の積み重ねによって、人類の普遍性と多様性を明らかにすることがこの学問の究極の目的なのです。

中国は多民族国家であり、漢族のほかに55の少数民族から構成されています。私はトン族という民族（人口約300万人）を対象に、文化人類学の立場から研究を続けております。文化人類学は非常に経験主義的な学問です。人類学専攻の大学院生は調査地にでかけてゆき長期の住み込み調査を行うこと（フィールドワークという）が義務付けられています。調査期間は1年以上が普通です。1994年から2年間、私はトン族の農家の一室に住まわせてもらいました。この時に得られたデーターをもとに博士論文をまとめ、学位をいただきました。

しかし、私にとって一番の収穫は、それまで縁もゆかりもなかったトン族の人たちと知り合い、おつきあいさせていただいたこと、そして、村での生活を通して彼らの生き方や人生観の一端に触れることができたことです。

文化人類学の素養を身につけることは将来医療に携わる学徒にとって非常に重要だと思います。身体や疾病に対する観念、そして医療行為が文化によって多様であることを文化人類学は明らかにしてきました。

しかし異文化は、遠い外国だけにあるものではありません。実は我われは異文化に囲まれて日々生活しているのです。文化人類学には「下位文化」という概念があります。大きくみると同じ文化でも、細かくみると性別や年齢、また地域、職業や階層の違いによって、その内部において価値観や行動様式などに小さな差異があります。このように、「下位文化」の観点からみると、医療従事者にとって患者さんもまたひとつの「異文化」と言うことができます。

患者さんが求めているのは自分たちの立場にたってくれる医師や看護師であり、医師や看護師はそれに応えようと努力されていることと思います。「患者さんの立場にたって考える」と一言するのは簡単ですが、行うのは難しいと思われます。それは、患者さんに対して医師や看護師の常識を投影することではありません。患者さんの眼線でみたら、世界がどうみえるか—を、患者さんから学び取ることが重要だと思います。文化人類学は、それに役立つさまざまな視点や調査技法をこれまでに編み出しています。

これから本学で、学生諸氏とともに文化人類学を学ぶことを楽しみにしております。

総合大学の文科系出身の私にとって、単科大学の医学部の世界は一種の「異文化」と言えるでしょう。私の新たな「フィールドワーク」は始まったばかりなのです。

皆様よろしく願いいたします。

◆経 歴

昭和61年 3月 京都大学文学部文学科卒業
昭和62年 4月 京都大学大学院文学研究科修士課程入学
平成 2年 3月 同 修了
平成 3年 4月 京都大学大学院人間・環境学研究科修士課程入学
平成 5年 3月 同 修了
平成 5年 4月 京都大学大学院人間・環境学研究科博士後期課程進学

平成11年 3月 同 研究指導認定退学
平成10年 4月 滋賀大学非常勤講師
平成12年 4月 立命館大学非常勤講師
平成13年 4月 大阪樟蔭女子大学非常勤講師
平成14年 4月 京都大学非常勤講師
平成16年 4月 滋賀医科大学医学部
医学科医療文化学講座助教授

臨床看護学講座助教授就任の挨拶

助教授 宮松 直美



2004年5月16日より臨床看護学講座で成人看護学を担当させていただくことになりました。滋賀医科大学は1999年から2年間助手として看護学生の実習指導に携わった大学であり、今回再び滋賀の地を踏むことができて嬉しく思っています。

自己紹介にあたって自身の看護学生時代を振り返ってみると、地域における医療機関の役割について読書会で討論していたことなどが思い出されます。また、議論だけでなくフィールドワークを行い、人々が生活の中でどのような健康上の問題を抱えどのように対処しているのかを調査する中で、多くの学びを得ることができました。地域に開かれた病院としては、急性期の加療や慢性疾患の管理とともに保健予防活動の担い手としての機能も重要であるとの考えは、そのころ培われたものです。滋賀医科大学の学生の皆さんにも、自分がどのような医療従事者になってゆくのかについて学生のころから考え話し合う機会をぜひ持っていただきたいと思います。

短大卒業後は、看護師として約10年間勤務するなかで、循環器疾患の心理的要因や糖尿病・高血圧患者教育の長期的効果について研究したいと考え、大学院への進学を志しまし

た。前期課程では心理的要因の評価と研究の手法を学ぶため心理学を専攻しました。在籍した研究室のprogress meetingは、全教授・助教授の前で院生が毎週交代で発表し、全員で討論するという形で行われていました。毎回の準備は大変でしたが、看護と心理学という二つの学問領域にまたがる研究について多くのご意見をいただいたことが懐かしく思い出されます。後期課程在籍中は疫学に興味を持ち、循環器疾患予防管理に関する研究に取り組んできました。full time studentとして大学院5年間を過ごし、好きなことをゆっくりと学ぶ機会に恵まれて幸運だったと思います。

疾病構造が変化し慢性疾患への対応に社会的関心が集まっている現在、働きざかりである壮年期の人々の心理・社会的側面も含めた健康諸問題に対処することは看護学の大きな課題です。今後も対象自らの行動変容が重要である生活習慣病に焦点を当て、脳卒中や心臓病を予防するためのライフスタイルのあり方や行動変容への看護介入効果についての研究を続けていくと共に、看護実践を担う人格と技量を身につけた人材育成に努めたいと考えています。どうぞご指導くださいますようお願い申し上げます。

◆経歴

昭和60年3月 神戸大学医療技術短期大学部看護学科卒業
 昭和60年4月 瀬医療生活協同組合看護部看護婦
 平成4年10月 医療法人社団神鋼病院看護婦
 平成9年4月 立命館大学大学院文学研究科博士前期課程入学
 平成11年3月 同 修了
 平成11年4月 滋賀医科大学医学部助手

平成13年4月 大阪大学大学院医学系研究科博士課程入学
 平成16年3月 同 単位修得退学
 平成16年4月 滋賀医科大学福祉保健医学講座
 リサーチ・レジデント
 平成16年5月 滋賀医科大学医学部看護学科臨床看護学講座
 助教授

キャンパス
ライフ

第29回 浜松医科大学との交流会開催

去る5月7・8日の2日間、浜松医科大学において第29回浜松医科大学との交流会が開催されました。

昨年まで体育会のみでの定期戦として開催されていましたが、今年は文化会も参加する交流会としてリニューアルされ、体育会から16団体、文化会から管弦楽団、アカペラサークルが加わり、総勢400余名が参加する大学行事として盛大に行われました。

期間中各クラブ間で熱戦が繰り広げられ、野球部の対抗

戦では本学の馬場副学長による始球式も行われました。一方文化系クラブの交流として、両大学管弦楽団の合同練習が行われ新たな交流が活発に行われました。また、閉会式に先立ち浜松医科大学学生によるパントマイム、ピアノのソロ演奏、本学学生からアカペラの歌唱を披露し交流会に華を添えました。



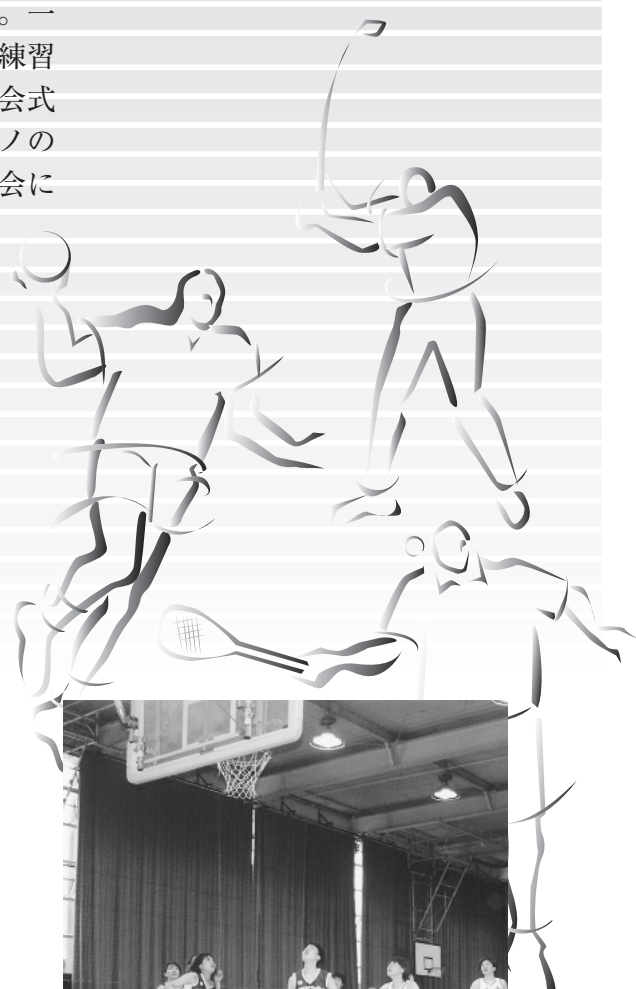
体育館での出発前の壮行会



浜松医科大学での開会式



馬場副学長による始球式



競技結果

種目	浜松	本学
硬式庭球 男	○	7-2 ×
硬式庭球 女	○	3-2 ×
サッカー	○	1-0 ×
準硬式野球	×	0-1 ○
バスケットボール 男	×	64-65 ○
バスケットボール 女	×	43-48 ○
バレーボール 男	○	2-0 ×
バレーボール 女	○	2-0 ×
バドミントン 男	○	3-1 ×
バドミントン 女	○	3-2 ×

種目	浜松	本学
ボート	○	1-0 ×
ヨット (470級)	×	29.7-19.4 ○
ヨット (スナイプ級)	×	28.4-21.7 ○
ハンドボール	×	19-34 ○
剣道 男	×	3-1 ○
剣道 女	△	0-2 △
空手道	△	1-1 △
ゴルフ	×	363-346 ○

総合結果
浜松 8対6 本学

通算、13勝13敗3引き分け



アカベラサークルによる文化交流

第90回 保健師国家試験の結果について

平成16年2月23日(月)に実施された、第90回保健師国家試験の合格発表が3月26日(金)午後2時から行われ、その結果は次のとおりでした。

	卒業者	受験者	合格者	合格率	備考
新卒者	71 名	71 名	68 名	95.8 %	合格率(全国) 92.3 %
既卒者		2 名	2 名	100.0 %	
計		73 名	70 名	95.9 %	

参考 前回第89回保健師国家試験の結果について

	卒業者	受験者	合格者	合格率	備考
新卒者	69 名	69 名	69 名	100.0 %	合格率(全国) 91.5 %
既卒者		7 名	5 名	71.4 %	
計		76 名	74 名	97.4 %	

第93回 看護師国家試験の結果について

平成16年2月22日(日)に実施された、第93回看護師国家試験の合格発表が3月26日(金)午後2時から行われ、その結果は次のとおりでした。

	卒業者	受験者	合格者	合格率	備考
新卒者	71 名	61 名	61 名	100.0 %	合格率(全国) 91.2 %
既卒者		0 名	0 名	0 %	
計		61 名	61 名	100.0 %	

(注) 新卒者中10名は3年次編入生で、既に合格済み。

参考 前回第92回看護師国家試験の結果について

	卒業者	受験者	合格者	合格率	備考
新卒者	69 名	59 名	59 名	100.0 %	合格率(全国) 92.6 %
既卒者		0 名	0 名	0 %	
計		59 名	59 名	100.0 %	

(注) 新卒者中10名は3年次編入生で、既に合格済み。

第98回 医師国家試験の結果について

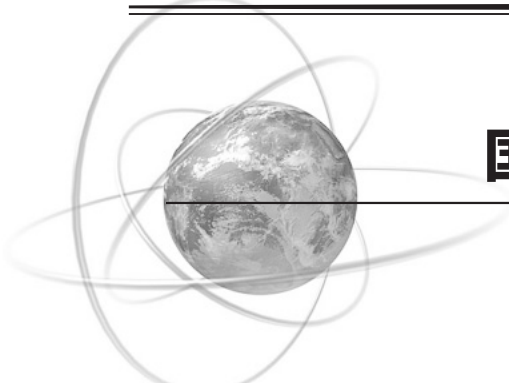
平成16年3月20日(土)、21日(日)及び22日(月)に実施された、第98回医師国家試験の合格発表が4月22日(木)午後2時から行われ、その結果は次のとおりでした。

	卒業者	受験者	合格者	合格率	備考
新卒者	112 名	112 名	108 名	96.4 %	全国 受験者 8,439 名 合格者 7,457 名 合格率 88.4 %
既卒者		4 名	3 名	75.0 %	
計		116 名	111 名	95.7 %	

参考 第97回医師国家試験の結果

	卒業者	受験者	合格者	合格率	備考
新卒者	94 名	93 名	90 名	96.8 %	全国 受験者 8,551 名 合格者 7,721 名 合格率 90.3 %
既卒者		6 名	4 名	66.7 %	
計		99 名	94 名	94.9 %	

(注) 新卒者のうち1名は、未受験。



国際交流の夕べを開催

3月9日（火）に「国際交流の夕べ」と題して外国人留学生との交流会が本学福利棟学生食堂にて開催されました。

今年は外国人留学生・研究生とその家族、支援団体・ボランティアの方々及び吉川学長をはじめ学内の関係教職員に加え、今回はじめて本学学生が参加し総勢 74 名にて行われました。

当日は、留学生等による自己紹介の後、来賓代表として大津市国際親善協会顧問の平野喜三様の挨拶があり、引き続き本学混声合唱団、管弦楽団の歌唱、演奏披露や留学生によるギター演奏が披露されました。また、バングラデシュからの留学生による手作りのチキンカレーや滋賀県名物の鮎寿司も用意され、参加者全員舌鼓を打ちました。

最後は全員で「琵琶湖周航の歌」を合唱し、笑顔の中で記念撮影を行い、参加者全員が交流を一層深めました。



留学生を囲む国際交流の夕べに参加して

大学院博士課程 1年 Tanvir Chowdhury Turin

In a lovely evening of March, the authority of the Shiga University of Medical Science arranged a gathering for the foreign students of this university. As the function was participated by the Administrative Authority and Professors of the University and Volunteer Groups in Shiga Prefecture, it was a great opportunity for us to interact with them. Normally we have to spend tough times busy with our studies and research and day to day living hassles in a foreign soil, these types of gatherings bring a cool air of socialization in our monotonous life. Some more knowing people who have devoted their times for the betterment of foreigners living in Shiga is of immense pleasure. Not to mention about the delicious cuisine served we also enjoyed the

cultural presentations made by the students of this University. Personally I was overwhelmed that everyone enjoyed my novice cooking of Bangladeshi curry. I even myself did not know that I was so good at it. I hope that the Japanese "Mina Sama," also enjoyed our company and learnt about our culture interacting with us, as we have learnt a lot from this occasion. Believe me we all will be very eagerly looking forward for the next gathering, keeping

3月のある夕べ、大学の方々、県内のボランティアの方々に参加され留学生を囲む交流会が催されました。

異国の地で研究に追われ忙しい毎日の繰り返しである私達にとってうれしい刺激となり、また色々な人と交流する良い機会となりました。美味しい食事そして大学の学生による音楽演奏。私が作ったバングラデシュカレーをみなさんがおいしいと言ってくださった喜び。この交流会を通じて私たち留学生がたくさんのことを学んだのと同時に日本の「皆様」も私達との交流を楽しみ、私達の文化を知っていただけたのではないかと思います。

是非又近いうちにこのような機会を催していただきたいと願っています。



ギターを奏でる筆者

管弦楽団部長 医学科3年 内山 弘基

今回、留学生交流会の場で演奏させていただいたことは、我々にとって大変貴重な経験となりました。定期演奏会と年一回のミニコンサート以外ほとんど活動の場がなかったので、このような形で普段の練習の成果を披露できたことは、慣れていないため緊張の連続であったという反面、逆にあまり経験がないからこそとても

楽しく良い経験となりました。

参加者が留学生ということで選曲に悩みましたが、いざ演奏したら皆口ずさんだり我々の演奏にのってくれたりしていただいたので気持ちよく演奏することができました。来年もこのような機会があるのなら是非参加したいと思っています。ありがとうございました。

混声合唱団 医学科2年 山下 陽子

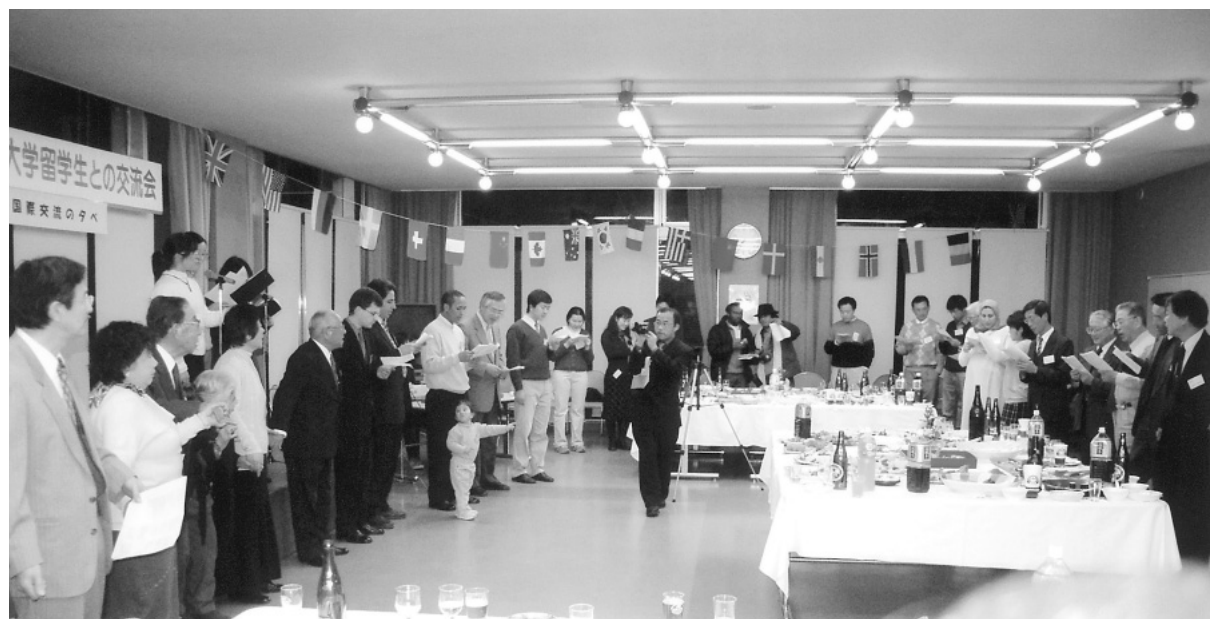
私たちが参加させていただいた留学生交流会は留学生や支援団体の方々と交流ができ、うれしく、また暖かさにあふれていたように思いました。

私たちは、赤とんぼ、故郷と琵琶湖周航の歌を歌いました。たった三人だけの部なので一人が伴奏、二人が歌うというものですが、なんとか形になって本当によかったと思いました。特に、皆さんと一緒に歌った琵琶湖周航の歌は大変楽しく、また、皆さんも楽しそうにして下さったので、とてもうれしかったです。私たちは、

主に老人ホームや障害者の方々のイベントに参加していますが、また違う場での交流が出来、とても新鮮でした。

また、その間、ずっと感じていたのは、留学生の皆さんがそれぞれの国に誇りを持ち、さらに知識の吸収をしようとする意志が非常に強いということです。それは、自分たちが恥ずかしく思えるほどでした。

最後になりましたが、こんな少人数の私たちのクラブを、このような大学の一大イベントに参加させていただき、ありがとうございました。



外国人留学生見学バス旅行（工場見学・陶芸教室）

平成 15 年度第 2 回外国人留学生見学バス旅行を去る 2 月 27 日に実施しました。

今回は、甲賀郡甲賀町にあるバイエル薬品滋賀工場の見学と信楽焼の陶芸教室が企画され、外国人留学生、外国人研究生、留学生等の家族および指導教官等 20 名が参加し工場見学と作陶を楽しみました。

参加した留学生は、バイエル薬品滋賀工場では完全にオートメーション化された生産工程を

見学し、高度な技術革新と生産管理に興味を示し、医学生として製薬過程を理解することが出来たと感想が寄せられました。

また、信楽の宗陶園で信楽町の伝統産業を見学した後、陶芸教室では粘土に触れ童心にかえり日頃のストレスを忘れることが出来たと好評で、2 ヶ月後の作品の出来上がりを楽しみに信楽を後にしました。



サークル紹介 作法研究会 徹底解剖

作法研究会部長 医学科2年 清水 碧

みなさんこんにちは、作法研究会です。
作法研に対するイメージはどんなもの
でしょうか?「学祭で着物を着て、お茶
たてている姿は想像できるけど、普段の
活動はさっぱり謎……」と思われる
方が多いのではないかと思います。確か
に作法研はかげながら活動している団体
です(笑)。そこで、この場を借りて、作
法研の紹介をさせていただきたいと思
います。

◎普段の作法研

活動日は毎週月・火曜日と意外と真面
目に茶道・華道のお稽古をしていて、京
都から先生が来てくださいます。お茶の
先生というと、物静かでおしとやかというイメージが
浮かぶかもしれませんが、私達の先生は豪快で、ユー
モアたっぷりの魅力あふれる方です。活動場所はプ
ールの向こう側にある看護師寮1Fの和室。オートロッ
クでしかも超☆美しいです。附属病院の医師・看護
師のかたと一緒にお稽古をしています。

華道は池の坊流で、毎週いろいろなお花をいけて、
家に持ち帰ります。内容は、盛り花(自由に花をい
ける)と、生花(教科書に従っていろいろな決まり
ごとを守って花をいける)、その他にクリスマスには
リースを作ったり、3月には花でお雛様をイメージし
て病院に飾ったりします。

茶道は、裏千家で、さまざまな作法が事細かに決め
られています。茶道をするには個人的に必要なものと



梨木神社のお茶会

して袱紗(ふくさ:ハンカチ風、いろいろなものを
拭く)、古袱紗(こぶくさ:コースターのようにお
茶碗の下に敷く)、懐紙(かいし:お菓子を置くお
皿がわりの紙)、菓子切り(お菓子を食べる楊枝み
たいなもの)、袱紗ばさみ(以上のものを全部入れ
る袋)です。そして、お抹茶を点てる時には茶筌(ちゃ
せん:言わば泡立て器)、お茶碗(お値段はピンか
らきりまで…)、茶杓(ちゃしゃく:抹茶をすくう
スプーン風)、家で点てる時には最低この三つに



抹茶の粉があればOK!、茶巾(ちゃきん:ガーゼ。
濡れたお茶碗を拭く)、棗(なつめ:抹茶を入れて
おく入れ物)、水指(みずさし:水を入れておく入
れ物)、建水(廃水入れ)、柄杓、お釜or鉄瓶、蓋置、
風炉(5~10月)or炉(11月~4月)などなどが
用意されます。まあ、このように茶道にはさまざま



な道具が必要なのですが、ほとんどは先生が用意し
てくださいます。1回のお稽古で、一人二回点てて1
~2服お抹茶を頂きます。

毎回出る和菓子、これを食べている時間が至福の
ひとときです。お菓子は京都五条の鴨月というところ
のものです。絶品!!甘さが上品で、見た目も季節
感がただよっていて藤の花、かきつばた、紫陽花、
びわ…など、常に美しく、優雅です。あんこが定
番ですが、わらびもち、水無月(かなりのボリューム
で今までの中で一番印象的)、もち系、お饅頭
など、本当においしいです!!お菓子の甘さを中
和するために飲む抹茶、これがまた美味で、日本
に生まれてよかった!と感じずにはられません。

抹茶には大きく分けるとお薄茶(うすちゃ)と
お濃茶(こいちゃ)があります。お薄は普段から
飲むさらさらのお茶で、裏千家ではお茶の表面が
均一でこまかい泡がたっぷり、というのが理想
形。茶筌を駆使していかに美しい泡を作るか、が
最重要ポイントなのです。お濃茶はドローンとし
た見た目やグロテスク気味で、あ
まりお目にかかれません。

◎他の行事

初釜という新年に最初のお稽古初
めの儀式を門人一同で行うのですが、
そのときにお濃茶を飲みました。初
釜は約4時間ほど続きます。正座は
つらくて涙が出そうになりました…
(笑)でも、普段のお稽古の正座はた
いしたことありませんし、そのうち
慣れます。

他にある行事は梨木神社(京都府
立医大の向かい)のお茶会を先生が
開催されるので、そのお手伝いでお

手前やお運びをしたり、京都で行われるさまざまな
お茶会に出席したりします。(先日は黄蘗山萬福寺の
花祭り茶会や上賀茂神社のお茶会に行きました。)そ
して、学園祭でのお茶席。着物を着て、椅子を運ん
だりお湯を沸かしたり毛氈(もうせん:赤じゅうた
んのこと)をひいたりなどの雑用はひと苦労で
すが、日頃、密室行為の作法研にとっては皆様に活
動を見ていただける数少ない(唯一の?)機会なので、
部員一同がんばっています。

学祭でやるお手前は立礼(りゅうれい)といって、
椅子にすわってやる点て方なので、楽ちんです。お
茶を飲むときは、お茶碗の正面の絵柄を避けるため
に「の」の字にいち、に、とまわして、飲みます。(何
口で飲んでも構いません。)今年も学祭で遊びづか
れた体を癒しに是非作法研究会のお茶席にお越し
ください。部員一同お待ち申し上げております。



初釜

新入生研修に参加して

医学科1年 木内 純

4月8日、9日に新入生の合宿が近江八幡休暇村でありました。

合宿中には様々なプログラムがありましたが、僕には特に防犯講座と懇談会が楽しかったです。防犯講座では、滋賀県警から柔道をやっておられる先生が来られ、護身術を教えてくださいました。その先生は講座が始まるや否や、自分が癌におかされていることを告白されたので、新生活のスタートで浮ついていた僕たちは、一瞬にして戸惑いと緊張につつまれました。その後先生は、重い病を患っているとは思えない程の達



者さで、僕たちに護身術を教えてくださいました。ぜひいつまでもお元気で、来年以降の新入生もしごいて頂きたいと思いました。

また懇談会では、西、村下両先生の話をお伺ったり、新入生一人一人の意気込みや志を言い合ったりして、とても良い刺激を受けることができました。

僕にとってこの合宿は、6年間で共にする友人たちや先生方のことを、多少なりとも知ることができ、大変有意義なものになりました。

医学科1年 中村 玲子

4月8・9日に新入生一同で近江八幡へ一泊研修に行きました。研修では護身・防犯指導や人権学習、交通事故防止のための講義などこれからの学生生活のためのものだけでなく、学生同士や先生方ともより親しくなるために飯盒炊爨、班別懇談会がありました。

飯盒炊爨では、はじめは話したことのなかったグループの仲間とお互いに協力し合ってカレーを作りました。当日は、とてもよい天気恵まれ琵琶湖を見下ろしながら食べるカレーはとてもおいしかった。グループ内でも出身地、出身高校のことからこれから入るクラブの話などいろいろな話ができて楽しい一時でした。



班別懇談会では、先生が医学生としての心構えや6年間のカリキュラムについてお話になり、これから医師になるために勉強していくのだという実感が湧いてきました。また、私たちが考えていることを、現在医師として働いていらっしゃる先生から捉えた意見も、とても興味深いものがあり、考えさせられ、これから様々なことを考えていくための大きなきっかけにもなりました。

今回の研修は、私たち新入生が滋賀医大の一員として自覚し、これから大学をさらに築いていくための足がかりになったと思います。

看護学科1年 森 友美

朝早くから1時間程バスに揺られ、今回の合宿所へとやって来ました。そこは自然豊かな場所で、とゆうよりは周辺には何もない所で、ただ、桜がとってもキレイだったという事がとても印象に残っています。

一番の楽しみは、飯盒炊爨です。初めてだったので何もかもが新鮮でした。説明の紙には「内側の線まで水を入れる」とあったのに、その線がわからなくて、皆で悩みました。やっとのことで出来上がったカレーはめっちゃ美味しくて感激でした。

夜の懇談会では、みんなの看護師になろうと思った動機を聞くことができ、みんなすごくしっかりしているなあと

思いました。今回の研修をふり返ってみて思う事は、一気に人の輪が広がったことでした。1日目の夜に仲良くなったみんなと、とても楽しい時間をすごせて良かったです。



看護学科3年（編入生） 芳 賀 文

入学して4日目で、まだ滋賀医科大学の雰囲気にも全く慣れていない時に行われた1泊2日の新入生研修、人見知りをする私にとっては、医学科や看護学科の1年生の人達の輪の中に入っていけるのか、正直なところ、心の中に大きな不安を抱いていました。しかし、いざ研修が始まってみると初対面同志でも話は弾み、飯盒炊爨ではご飯が少しおかゆみたいでしたが、有意義で楽しい時間を過ごせたように思います。

また、先生方による講義は興味深いものであり、2日間という短い期間でしたが、今後に生かしていけるような多くの知識を得ることができました。

想像以上に内容の濃かった新入生研修、参加

できて本当に良かったです。2年間という他の人達よりは短い学生生活となりますが、今回の経験を生かしつつ、充実した学生生活を過ごせるように頑張っていきたいと思います。



海外遠征体験記（楽しいクライミング）

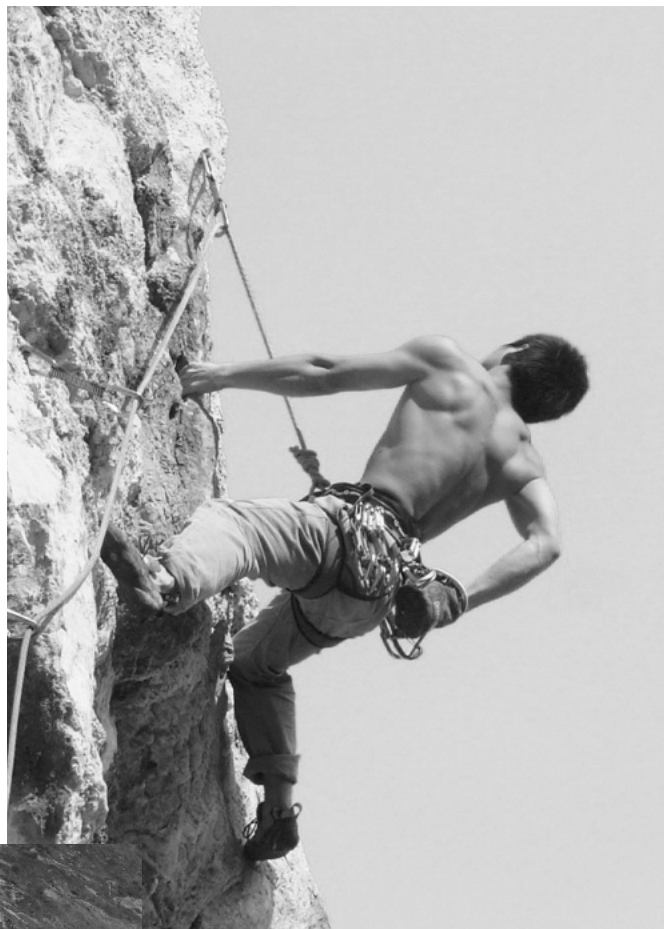
医学科4年 藤川 正人

クライミングの紹介

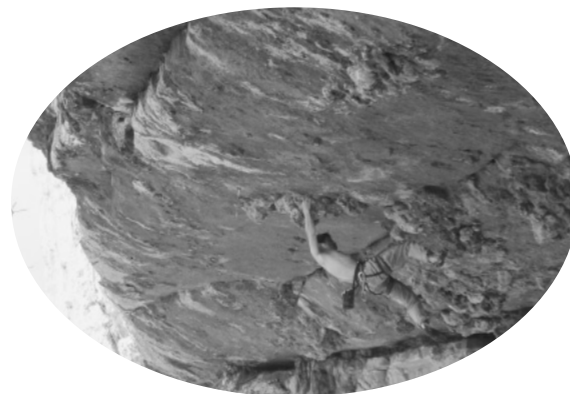
クライミングを御存知ですか？自分の手足だけを使って岩を登るスポーツです。難しいルートを如何にして登りきるかを指すものです。力はそれほど要りません。余計な力を抜き、巧みに全身のバランスを駆使し、重力を逃がしながら上を目指します。力だけでは絶対に登れません。言わば、頭と体をフルにを使って挑むパズルのようなものです。

比較的体の軽い女性の方が早く上達することが多いようです。老若男女様々な人がやっています。ロープを付けたり、マットを敷いたりしてある程度の安全は保たれますが、多少の危険性を伴うのは他のスポーツと変わらないと思います。フォール前提の下、安全管理には仲間が常に注意し合うので命に係わるような事はありません。

近頃は各地にクライミングジムなるものがオープンし、誰もが安全かつ気軽に体験することが出来ます。道具が要らない、お金がかからない、一人でもできる、いつでもできるといった気軽さも魅力の一つです。相手は自分自身の弱い部分です。難しいルートを登れたときの喜びも個人的なものです。武道の精神に通じるものがあるという人もいます。このように個人主義的要素が強い反面、今の自分が越えられない壁を越えようと努力する点では皆が一緒なので自然と声援が生まれ仲間も出来ます。ともあれ、誰もが各自のレベルで愉しめるというわけです。



地上30mの休憩ポイント



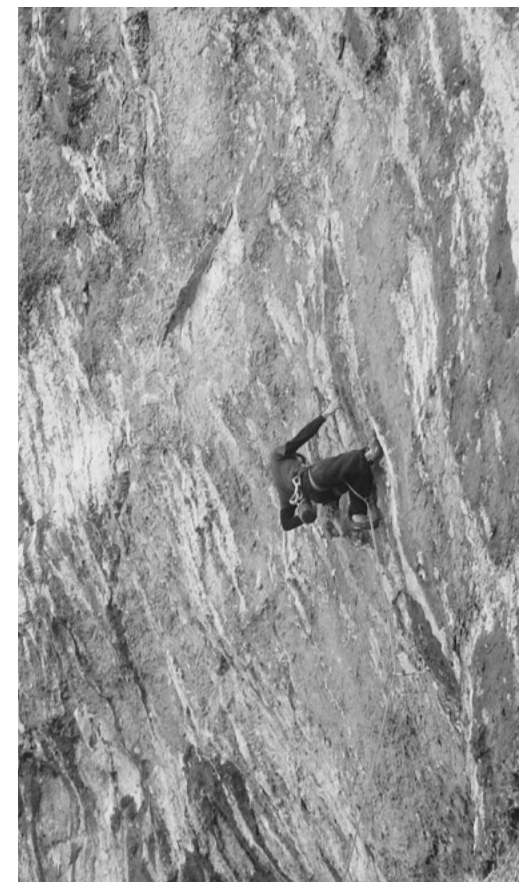
まだまだ競技人口の少ないマニアックなスポーツです。本学ではクライマーは私を含めまだ3人しかいません。

海外遠征体験談

私はクライミングをやって2年半程になります。普段はジムで練習し、時に自然の岩場へ登りに出かけます。クライミング用に予めボルトが打たれ整備されている岩場が日本各地にあります。運動部に例えると“試合”のような感じでしょうか。

今年の3月から4月にかけて、学生生活中において最大の目標とする難易度のルート（業界用語で5.13a）を完登するべく、初の海外ツアーとしてMarseille郊外の地中海に面して続くles calanquesという景勝地としても有名な岩場へ行きました。

狙いは小さな港町のそばの岩山の中腹に開いた大きな洞穴にある20m程度のルートでした。南仏とはいえ3月は極寒でしたが、180°の屋根状にもなったオーバーハングを見るとモチベーションは最高に達しました。スタートからゴールまで一度も落ちず、ロープに体重をかけずに登れたとき、そのルートをモノにしたことになります。1回目のトライの時、何度もフォールするわ、前腕の筋肉は鬱血してパンパンに腫れ力が出ないわ、で全く完登の可能性を感じる事ができ



ませんでした。足掛け3日を要し12回のトライの末、何とかゲットできました。最後の一手が決まったとき…クライミングを始めた当初、まさか自分が5.13aに到達できるとは毛頭考えていなかったもので、2年間の練習と経験がここに結晶したかと思うと感極まって腹の底から地中海まで届くほど大声で叫んでいました。

南仏では他大学の学生と5人でまさに珍道中でした。拠点となったGemenos村は静かな所でした。メシは旨いし、酒は安いし、オフの日はスーパーで買出しをしたり、カフェでのんびりしたり、レンタカーで街までドライブしたりと最高でした。

クライミングは楽しみながらトータルフィットネスが出来るスポーツです。誰でもトライできるのでご興味あれば是非ジムまで一度足を伸ばし、体験してみてください。

Homepage :
www.geocities.co.jp/CollegeLife-Club/7735/index.html



Calanques から見る地中海

インフォ
メーション

MR 医学総合研究センターに 7 テスラ MR 装置の導入

「体内を見ながら進める医学の研究」

平成 15 年 12 月、分子神経科学研究センター横に竣工した MR 医学総合研究センターに、磁場強度 7 テスラを持つ MR 装置が導入され、6 月 4 日に学内関係者に公開されました。7 テスラとは 70,000 ガウスで、地表での地磁気の強さ約 0.5 ガウスに比べれば、14 万倍の強さになります。

直径 2.5 メートル、長さ 2 メートルで 40 センチメートルの開口径を持つ、アクティブ遮蔽付き超伝導磁石は、重量が 9.8 トンで国内では最大級のものであります。

本学における MR 医学研究の対象は、現在の医学研究の流れに呼応して、生体内の代謝反応の無侵襲解析から、術中に MR 画像を撮影しながらの手術や、体の中の移植細胞を識別する、細胞追跡に変わってきました。

MR では、磁場が高くなればなるほど MR 信号の検出感度が向上し、今

回の 7 テスラ MR 装置の導入により、画像の解像度が格段に高くなりました。

これからの医療では、患者さんへの負担を軽減するための無侵襲画像診断や低侵襲治療が求められます。放射性物質を一切使用しない MR を

用いて、今後の医療で必要とされる遺伝子発現の画像化、あるいは移植細胞、ことに万能細胞と呼ばれる ES 細胞の体内追跡など、新たな研究に取り組むこととなります。また、治療用のナノ・デバイスや薬品の輸送カプセルなど、体内の小さなデバイスが標的に向かって移動するのを追跡し、さらに、それを標的まで正確に誘導することにも利用できそうです。

MR 医学研究は、本学における重点プロジェクトとして位置付けられており、今後のさらなる研究の発展に期待が寄せられています。



第27回解剖体納骨慰霊法要

去る5月29日(土)午前10時30分から、新緑が鮮やかな比叡山延暦寺阿弥陀堂において、御遺族、御来賓、しゃくなげ会会員及び学生、教職員約400名の参列の下に、第27回解剖体納骨慰霊法要が厳粛に執り行われ、故人の御冥福をお祈りしました。

今回お祀りした41名の御霊に対し、吉川学長が、故人の御意志に感謝し、今後とも医療を通して社会に奉仕し、医学の道を深めるべく一層の努力をする覚悟であると今後の決意を述べられ、続いて、学生代表松林 潤君が、この解剖学実習を通じて故人から教えていただいたことを、大切に胸にしまい、体の痛み、心の痛みのわかる医師として、生涯精進することを御霊前に誓いました。

法要終了後、引き続き御遺族代表に学長から文部科学大臣からの感謝状の贈呈および学生から御遺骨の返還が行われました。

また、午後からは、比叡山横川の大学霊安墓地において、御遺族、御来賓、学生等の参列の下に、納骨式が執り行われました。



映画「火火」のロケ

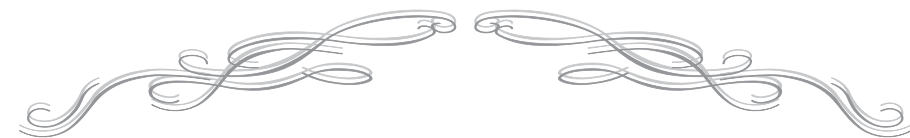
本学構内で、去る5月22日(土)、5月28日(金)～30日(日)に亘って、映画のロケが行われました。

この映画は、白血病で息子を亡くされた信楽焼の女性陶芸家 神山清子さんの生き様を描いたもので、来春の全国上映に向け信楽町を中心に県内各地で撮影が行われました。

神山さんは陶芸活動の傍ら息子の発病をきっかけにドナー登録運動を始め、その活動は骨髄バンクの設立の大きなうねりとなりました。

本院では、亡くなられた賢一さんが本学の「しゃくなげ会」の会員として献体されたこともあり、病院長や看護部長等関係者がこの映画の主旨に賛同し、患者さんに迷惑がかからないよう細心の注意を払いつつ撮影に協力しました。期間中、田中裕子さん(神山清子役)、窪塚俊介さん(息子 賢一役)、石田えりさん(清子の妹役)、池脇千鶴さん(賢一の恋人役)らが本学を訪れ、病院の正面玄関や中庭など学内各所で撮影が行われました。





小澤 和恵 元学長 瑞宝中綬章受章

小澤和恵氏は、本学学長・副学長（医学部附属病院長併任）として大学及び附属病院の管理・運営に尽力される一方、ご専門である消化器外科学、特に肝臓外科領域において生体部分肝移植が脳死肝移植と異なった利点をもつことを明らかにするなど、生体部分肝移植の基礎を確立されたご功績により、平成 16 年 4 月 29 日（木）瑞宝中綬章を受章されました。

名誉教授の称号付与

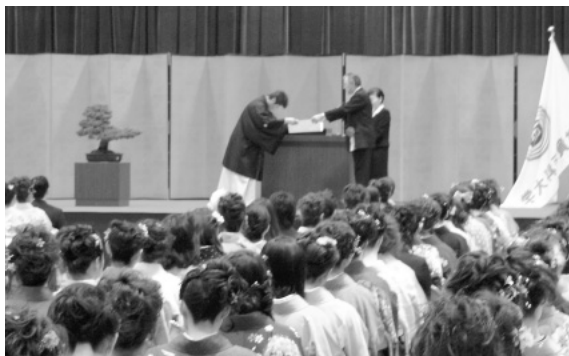
学校教育法第 68 条の 3 の規定により、滋賀医科大学名誉教授の称号を下記のとおり授与しました。
平成 16 年 4 月 1 日 元教授 可 児 一 孝

平成 15 年度卒業式

平成 15 年度本学卒業式が、去る 3 月 25 日（木）午前 10 時から本学体育館において挙行され、学長から次のとおり告辞がありました。

告 辞

学長 吉 川 隆 一



本日、滋賀医科大学医学科学生 112 名、看護学科学生 71 名の諸君が晴れて卒業の日を迎えられましたことに心よりお祝い申し上げます。また、これまで陰になり日向になり学生達を支えてこられたご両親、ご家族の皆様にお喜び申し上げます。さらに、本卒業式にご参列下さったご来賓、教職員の皆様にお礼申し上げます。学生諸君は、これから高度な専門職を担う医師、看護師、保健師として社会へ巣立って行かれるわけですが、社会の期待に応えるべく今後共精進を積み重ねていかれるよう希望しております。

医学科卒業生の諸君は「卒後臨床研修制度が

義務化」された最初の年を向かえることになり、研修病院の選択に際してもマッチング方式の採用など新しい試みが導入されたため、苦労と戸惑いの連続であったのではないかと推察しております。

また、例年になく多くの卒業生が本学以外の施設で初期研修を受ける予定となっており、大学としても大変心配しております。他大学出身者と共に働く病院で研修されることになるわけですが、他人と比較して思い悩まないように、自らの個性に「世界でただ一つの花」であることに自信を持ち、大学で学んだ知識・技を信じ、むしろ様々な経験、意見を持った人々と混ざり合うことの利点を生かすよう努力して下さい。琵琶湖の鮎の如く、外の地で大きく成長されることを、またいつの日か本学で再会できることを祈念しております。

看護学科卒業生で今年特徴のある点は「進学」希望者の多さです。71 名中 12 名と 10 年の歴史の中で初めて二桁に達しております。看護師、保健師の職域に加えて 他の職域の知識と技を学びたい、或いは大学院へ進みたいと云った向学

心とチャレンジ精神にあふれた学生が増えていることは真に心強い限りであります。彼らの新たな挑戦が実り多い成果をもたらすよう祈念しております。

卒業式のことを米国では「Commencement」と云いますが、この言葉は「始まり」を意味します。本日は諸君にとって新しい人生の始まりの日であります。しかもその人生の行程表、

ロードマップの作成は諸君自身に任されており、また実行も諸君自身の手中にあります。人生はある意味「ミステリアスな旅」であり、ロードマップの通りにはいかないかも知れません。しかし、好奇心と勇気を持って次のステップへと歩を進める価値のある旅でもあります。賢人の言葉に次のようなものがあります「人生の悲劇は、君が目標を達成出来ないことではなく、達成すべき目標を持っていないことにある」と。諸君の一人一人が自らの手で人生の目標を立て、前向きにかつ責任を持って歩み出して行って下さい。誰の人生でもありません、あなたの人生なのです。

最後に、これから医療の世界で働くことになる諸君に三つのアドバイスを贈りたいと思います。第一に、「思いやりの心」を大切にして下さい。病に苦しむ方々に対する思いやりは無論のこと、職場で共に働く仲間、さらには今後一緒に働くであろう後輩、その他周囲の多くの方々に思い



やりの心を持って接して下さい。思いやりの心、同情心は医療の原点であることを銘記して下さい。第二に、「謙虚さ」を失わないで下さい。諸君はその能力を認められて本学に入学し、医師・看護師になるための高度な専門的知識と技を教授された極めて優秀な人材であり、社会の期待も大きなものがあります。しかし、医療の現場は決して簡単なものではありません。未だ解明されない課題、難題が数多く存在しており、自らの無知、無能を思い知らされることもあるでしょう。その際、思い高ぶることなく、決して知ったかぶりをせず、謙虚に自らの足らざる所を認め、誠心誠意問題の解決に努めて頂きたい。最近話題となっている医療ミスの多くは、思いやりの心と謙虚さがあれば防げたはずであります。第三に、「挑戦する心」を燃やし続けて下さい。21 世紀は全ての営みが世界的規模で評価され、語られる時代です。「世界に挑戦する大学」を目指している滋賀医科大学の卒業生として、また、先進性高い地域として知られる滋賀の地で成長した人間として世界に誇れる医師、看護師、保健師或いは研究者を目指して、21 世紀の医療を担う人材となるべく、力強く人生を歩んで行って下さい。

183 名の一人一人に幸多からんことを祈念し、学長告辞といたします。



保健管理
センター
だより

主な業務

●健康相談

随時応じます。健康診断の事後措置など健康の保持・増進に必要な指導助言を行っています。

●学校医の先生による健康相談

予約制です。

担当医に対して相談を希望される方は、事前にセンター事務室に申し出てください。

●精神保健相談

心身の悩みに関する相談を行っています。性格について、対人関係について、あるいは学業・進路や仕事についてなど、些細なことでも結構です。

●健康診断

学 生：

- (1) 定期健康診断……全学年に対して、年度初めに実施
当日に欠席した場合には、後日に健康診断書を提出しなければなりません。
- (2) 特別健康診断
 1. 心電図、血液検査、ツベルクリン反応検査・・・1 学年および編入生の入学時に実施
 2. 肝機能検査……大学院生
 3. B、C 型肝炎検査（希望者には B 型肝炎ワクチンを自費で接種しています）
 4. 糞便検査……看護学科 3 学年

職 員：

- (1) 一般定期健康診断……全職員に対し実施
- (2) 特別定期健康診断……特定の職種に就く者に対し実施

●健康診断証明書発行

定期健康診断の結果に基づいて発行しています。

就職等に際しての診断書では、必要な検査を実費追加して、発行することもできます。

●応急処置

切り傷、捻挫、腹痛、発熱などに対する救急薬を常備しています。
休養ベッドもあります。

利用について

- 利用時間 月曜日～金曜日 9：00～17：00
相談内容については、秘密を守ります。電話・家族・友人による相談にも応じます。
- 利用は無料ですが、病院受診になる場合の医療費は自己負担となります。
下宿している学生さんは遠隔地被扶養者証を発行してもらっておくと便利です。
- 健康器具
自動身長体重計（肥満度を同時測定）、自動血圧計、自動視力測定器、エルゴサイザー、ビューティーローラーが常時利用できます。また、体脂肪率計、尿検査、心電図検査、タバコチェックも申し出いただければいつでも行えます。健康の自己管理のために役立ててください。ストレス緩和に有効な音楽療法装置（ボディスロニック）もありますので、利用してください。

●何でも相談室

皆さんが抱えているいろいろな問題や悩みごとに対し、その問題解決に向けて積極的に対応していくため、保健管理センター内に「何でも相談室」を開設しています。「何でも相談室」の相談体制には、必要に応じ、学生課や庶務課も対応します。プライバシーの保護を厳守しますので、気軽に相談に来てください。

スタッフ

所 長 大矢 紀昭（併任 ☎548－2399）
講 師 村 下 淳（専任 ☎548－2092）
看護師 山下 幸香（専任 ☎548－2087）
学校医 22 名（併任）

新装「勢多だより」発刊に際して

春の陽気に包まれて、入学式を迎えたと思ったのも束の間で、もう夏休みが目の前です。新入生の皆さんは、滋賀医科大学での学生生活に馴染めていますでしょうか。先輩達は、学業に専念できていますでしょうか。学生の皆さんが快適で充実した日々を過ごせていれば、一教員として嬉しく思います。

さて、すでにご承知と思いますが、国立大学の法人化に伴い、本学は4月1日より「国立大学法人滋賀医科大学」として新しい歴史を刻み始めています。大学の機構がどのように変化したかについては、滋賀医科大学ホームページを御覧いただくとして、今後の大学は社会的評価を受けながら健全運営を図ることになります。好むと好まざるとに拘わらず、大学の構成員は滋賀医科大学の運命共同体であることを意識せざるを得ません。大学が掲げた教育理念のもとで、信頼される医療人を目指して、皆さんにも大いに奮起していただきたいと思います。

この法人化を機会に、開学以来親しまれてきました広報誌「勢多だより」もリニューアル致しました。「学報」「さざなみ」「保健管理センターだより」の3冊子を「勢多だより」に吸収統合し、大学のホームページへの掲載分を除いて「勢多だより」を充実した内容で年3回発刊することになりました。これまで以上に学生の皆さんに愛読して頂き、学内の多彩な情報を共有して頂きたいと思います。また、記事にして欲しい情報やアイデアがありましたらどうぞ学生課までお寄せ下さい。

学内向けの唯一の広報誌となりました「勢多だより」を介して、全ての大学構成員の間に連帯の輪が広がり、滋賀医科大学への愛校心が高まることを心から願っています。

編集長 今本 喜久子
(基礎看護学講座 教授)

●勢多だよりの由来●

勢多は勢田、世多、瀬田とも書かれるが、古代、中世の文献では、勢多が多用されている。それに勢多は「勢(いきおい)が多い」という佳字名称である。従って、いきおいが多かれと願う本学関係者の想いにぴったりということで、瀬田とせずに、あえて勢多とした。

(題字は脇坂行一初代学長による)

勢多だより No.65

発行年月日：平成16年7月10日

編集：「勢多だより」編集担当者会議

発行：滋賀医科大学広報委員会